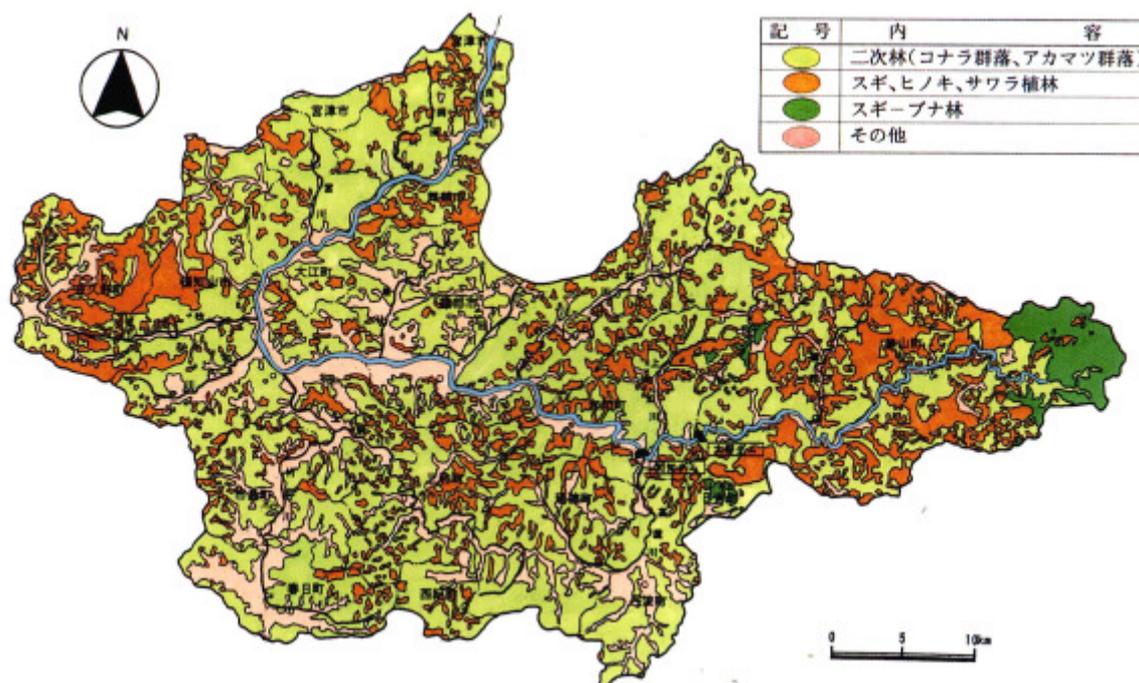


2. 流域及び河川の自然環境

1) 流域の自然環境

(1) 流域の植生

由良川流域の植生は、暖温帯常緑広葉樹林帯から冷温帯落葉樹林帯に属しており、原生林は極めて少ないもののシイ、カシ林からブナ林を見ることができる。これらの代表的な分布は、大江町大江山のブナ - ミズナラ林、同町の内宮に見られるシイ林、和知町仏主高山のモミ - カエデ林、美山町芦生あしゅうのスギ - ブナ林、同町の佐々里峠のスギ - ブナ林などがあげられる。中でも由良川源流に位置する美山町芦生あしゅうには約2,000haと広い自然林が残されており、この区域のスギ - ブナ林は学術的価値も高く貴重な森林となっている。これ以外の大半の森林は、ほとんどがスギ、ヒノキの人工林か、アカマツ、コナラを主とする二次林となっている。



(出典；第2回、3回自然環境保全基礎調査現存植生図 京都府・兵庫県1982,1985)より作成

図 2.1 植生分布図

(2) 流域の動物

由良川の源流には、^{あしゅう} 芦生原生林が広がっており、天然記念物であるニホンカモシカをはじめ、ツキノワグマ、アナグマが生息する動物の宝庫となっている。また流域内には、ニホンザル、イノシシ、キツネ、タヌキの生息が確認されている。

鳥類は、天然記念物のオジロワシをはじめ、ハヤブサ、カンムリカイツブリなどの「レッドデータブック」記載種、ゴイサギやアオサギなどのサギ類、カモ類、ヤマセミ、カワセミなどが生息しており、平成7年度の水辺の国勢調査では、過去からの文献調査も合わせて124種が確認されている。

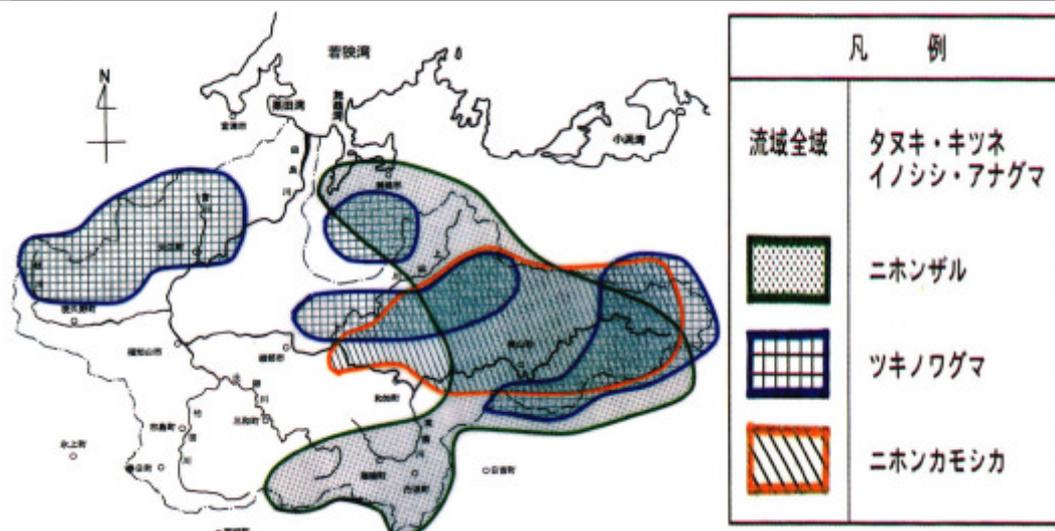
昆虫類は、^{たけだがわ} 竹田川流域にゲンジボタル、綾部市の井根山・寺山周辺の由良川沿いにギフチョウなど指定昆虫類が8種^{注・1)}、^{たけだがわ} 竹田川下流のナニワトンボなど特定昆虫類^{注・2)}が16種生息している。

両生・は虫類は、モリアオガエルが流域内に広く分布する他、^{はぜがわ} 土師川や棚野川上流域、^{あしゅう} 芦生原生林などにヒダサンショウウオ、^{あしゅう} 芦生原生林にハコネサンショウウオが生息している。また、支川等の渓流にはオオサンショウウオの生息が確認されている。

注 - 1) 環境庁による指定昆虫は、ムカシトンボ、ムカシヤンマ、ハッチョウトンボ、ガロアムシ目、タガメ、ハルゼミ、ギフチョウ、ヒメギフチョウ、オオムラサキ、ゲンジボタルの10種である。

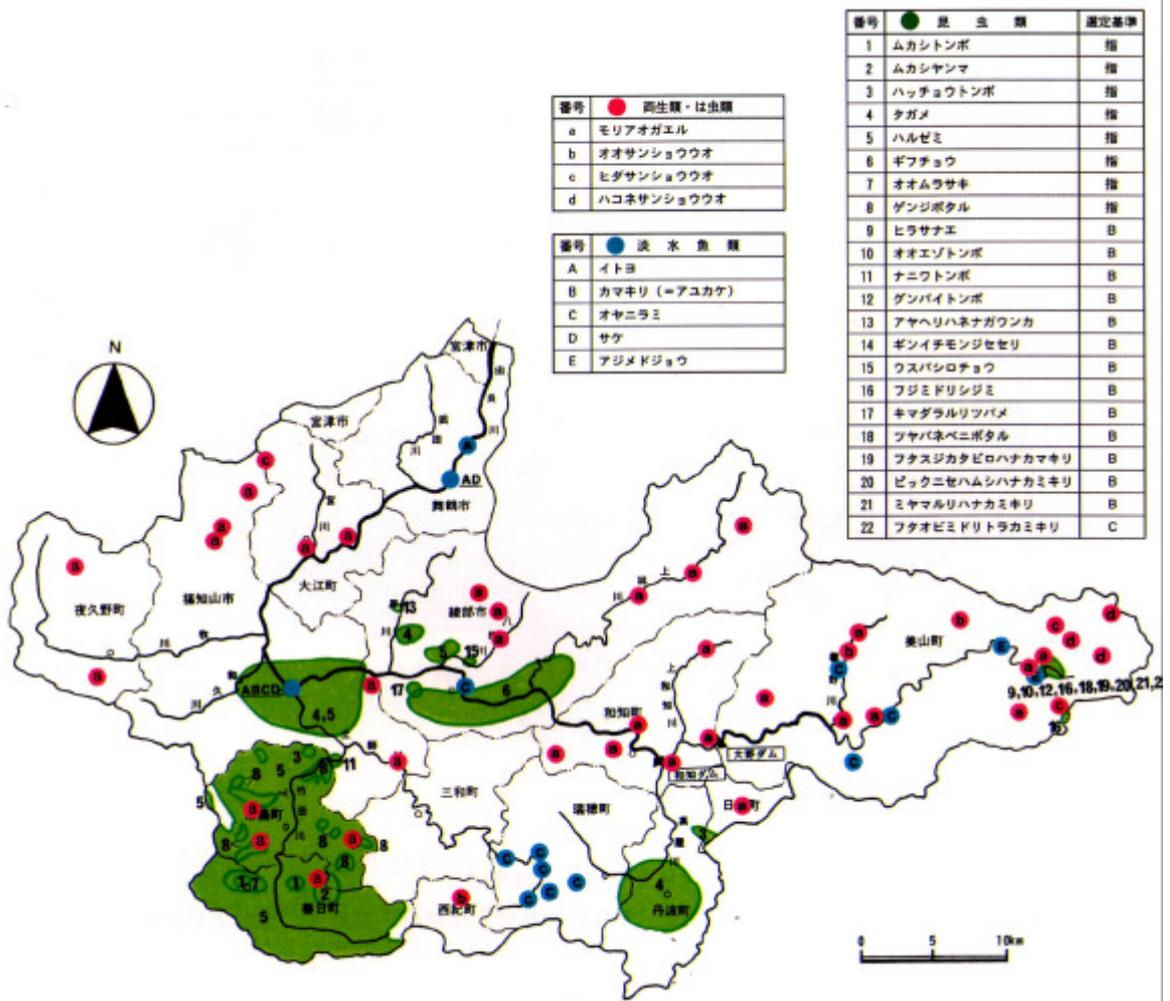
注 - 2) 環境庁による特定昆虫類は、次の選定基準による

記号	理 由
A	日本国内では、そこにしか産しないと思われる種
B	分布域が国内若干の地域に限定されている種
C	普通種であっても、北限・南限などの分布限界になるとと思われる産地に分布する種
D	当該地域において絶滅の危機に瀕している種
E	近年当該地域において絶滅したと考えられる種
F	業者あるいはマニアなどの乱獲により、当該地域での個体数の著しい減少が心配される種
G	環境指標として適当であると考えられる種



(出典；第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 京都府・兵庫県 1982) より作成

図 2.2 ほ乳動物の生息分布図



(出典；第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 京都府・兵庫県 1982) より作成
 図 2.3 昆虫・魚類・両生類・は虫類の生息分布

2) 河川の自然環境

由良川には河川の蛇行で形成された瀬・淵が多く存在する。由良川及び土師川の直轄区間において調査したところ、淵がそれぞれ29箇所、5箇所、計34箇所、瀬がそれぞれ20箇所、6箇所、計26箇所確認されている。これらの瀬・淵は生物とりわけ魚類に良好な生育環境を提供しており、さらに、由良川にのこる河畔林である水防林と一体となって、特徴的な景観となっているとともに、多種多様な生物の生息・生育環境として重要な役割をはたしている。

由良川には南日本特有のハゲギギ、オヤニラミ、ドンコ、ヒガイ、ムギツクなどが生息している。また、ウキカマツカやオヤニラミは分布の北限となっている。

中下流の淡水域にはアユ・オイカワ・ニゴイ・カワムツ・カマツカ・カマキリ・アジメドジョウ・シマドジョウ・ヨシノボリ類・トゲウオ科に属すイトヨなどの生息が確認されている。

特定種は、過去の文献調査も含めて、アジメドジョウ、サケ、サツキマス、イトヨ、カマキリ、オヤニラミの6種が記録されているが、水辺の国勢調査では、日本の重要な淡水魚類指定種となるサケ、カマキリが確認されている。

エビ類は、スジエビ、テナガエビ、ヌマエビなどの6種、カニはモクスガニ、ケフサイソガニの2種、貝類はカワニナ、チリメンカワニナ、マシジミなどの7種が平成8年度の水辺の国勢調査のとき確認されている。

由良川の魚種の特徴は、アユ・サケ・スズキ・イトヨといった降海型の魚がみられることである。特に、京都府ではサケの遡上する数少ない河川であり、地域の人々の誇りとなる貴重な存在となっている。

(1) 上流部

由良川上流の河床勾配は、1/500程度から1/1000程度へと河川上流部にしては比較的緩やかに変化している。

瀬・淵については、河川のダイナミズムにより、蛇行区間などで発達が多くみられ、自然河川の面もちを色濃く残している。

由良川では河岸段丘の発達の特徴の一つである。特に上流部の和知町字安栖里^{あせり}には、大きく蛇行しながら北流する由良川に沿って大規模な河岸段丘が見られる。これは、川底に堆積した砂礫層が隆起し、棚状の平坦地を形成したものであり、ここでは四段の段丘が認められる。

美山町芦生の知井地区や安掛の平屋地区には、京都府の天然記念物に登録されているオヤニラミなどの貴重な魚類をはじめ、多種類の魚類が生息している。また、棚野川の鶴ヶ岡などには、国の天然記念物に指定されるオオサンショウウオ、溪流に生息するカジカガエルなど貴重な動物が生息する。

魚類については上流部では、イワナ・ヤマメなどが確認されている。



オヤニラミ

1924年の資料に确实と思われる聞き取りとして記録されており、以降も各資料に記録がある。現在、由良川に生息しているとしても、生息場所が限定され、数もすくないと考えられる。1978年に美山町安掛で現地確認され、1979年にも上流側知井で採集されている。

オヤニラミは、水がきれいで、水草の生えている岸寄りに生息する。



オオサンショウウオ

標高400～600mの河川の上流にすみ、夜行性で魚やカエル、サワガニなどを食べている。繁殖期は8月下旬から9月上旬で、400～500個の数珠状に連なった卵塊を産む。ふ化した幼生は3年かけておよそ20cmほどの大きさで変態を完了する。



カジカガエル

山地に分布し、川幅の広い溪流や湖、その周辺の川原、森林に生息する。繁殖期は4～8月であるが、約3ヶ月間におよぶ。繁殖は溪流中で行われる。ふ化した幼生は流水中で、水底の砂利や小石の間で生活し、石の表面に着生した藻類を削りとって食べる。変態期は、5月に産卵された場合には8～9月となる。クモ、双翅類などを食べる。冬眠は、河岸の浅い砂中や石下でなされる。

(2) 中流部

中流の17km～33km付近までは、平均河床勾配が約1/1,500～1/6,000程度の緩勾配である。

中流部の瀬・淵についても、河川のダイナミズムにより、蛇行区間などで発達が多くみられ、上流部と同様自然河川の面もちを色濃く残している。

中流部の福知山盆地では、河岸段丘の外に洪積台地や扇状地など各種の地形の発達が見られる。

由良川の最大の特徴は、水害防備林としての役割を果たす竹藪（マダケ）が多く存在することである。今でも、広く連続する竹藪を主とする河畔林が残っている。

平成9年度の水辺の国勢調査結果では、94科435種の植物が確認された。代表的な河川植生は、オギ・ヨシ・ツルヨシ・ヤナギ類群落である。なかでも、オギ群落が全域にみられ、特に35～40km付近の右岸に広がっている。ツルヨシ群落は、中流から上流にかけてみられる。また、急流域には、カワラハンノキ、ネコヤナギなどが多く生育している。

平成4年度及び平成9年度の水辺の国勢調査で確認された特定種は、タコノアシ、ミゾコウジュ（「植物版レッドリスト」絶滅危惧 類）のほか、カワヂシャ、オオバノハチジョウシダ、ハマナスの5種である。

中流部ではシマゲンゴロウ、ガムシ、ゲンジボタル等のコウチュウ目、ゲンバイトンボ、アオハダトンボ、オニヤンマ等のトンボ目等、水生昆虫の成虫に注目すべき種類が多く見られる。特定種では「日本の重要な昆虫類（環境庁1980）」掲載種のうち、ゲンバイトンボ、キイロヤマトンボ、アカハネナガウンカ、ツマグロスケバ、ヨコヅナサシガメ、ゲンジボタル、ハラグロオオテントウの7種が確認されている。

由良川の特定種

「レッドデータブック」 危急種		自然公園法による指定種
タコノアシ	ミゾコウジュ	ハマナス
		

(3) 下流部

下流の河口から約17km付近までが感潮区間であり、その区間の平均河床勾配は、約1/8,000という非常に緩やかなものとなっており、緩やかな流れを形成している。

また、下流部は感潮区間であるため、瀬は形成されていないものの、大規模な淵がみられる。

下流部では河岸段丘の発達は見られず、幅200m～300mの谷底平野となっている。

植物は、マコモ、ミゾソバなどが生育している。また、河畔林が存在するものの、中流部ほど連続性していない。

魚類は、ボラ・セスジボラ・ヒイラギ・マハゼ・スズキなどがみられる。

3) 特徴的な河川景観や文化財

(1) 特徴的な河川景観とその利用

上流部の景観は、緑を基調としたスギ、ヒノキ等から構成される森林を映す溪流を呈しており、河川と周辺が一体となって美しい景観となっている。また、ダム貯水池においては静水面が周辺と調和した良好な水辺空間を形成している。この区域ではこのような良好な景観のなかでカヌー下りなど水面利用のレクリエーションが行われている。

福知山盆地を流れる中流部では、由良川の中でも唯一盆地の平坦部をながれ、川幅も広がり瀬・淵が発達して、ゆったりとした河川空間を形成している。背後には綾部・福知山の市街地と福知山城や三段池公園、紫水ヶ丘公園等を配しており、この付近の河川空間は利用者も多く、高水敷にはスポーツ広場等も整備されている。

山裾の間を流れる下流部は堤防も殆どなく、田園風景をかもしている。また、河口部は日本海へと続いて水平線をなし、広い砂州を形成するなど広い水面空間を形成している。

(2) 文化財

由良川流域における文化財は、国指定文化財では、有形文化財の丹波コレクション、名勝で照福寺庭園、また重要文化財では光明寺、石田家住宅などの社寺、仏閣が多く見られる。これらは、綾部市や福知山市など由良川及び支流沿いに集中して見られるのが特徴である。

(3) 観光・景勝地

由良川流域における観光、景勝地は、若狭湾国定公園のある河口部、高屋川上流の丹波町に多く分布する。代表的なものは、丹波自然公園、大野峡谷、大江山、生野の里、紫水ヶ丘公園、三段池公園の他に舞鶴温泉、由良浜温泉、国領温泉などがある。

一方、明智光秀の改築によって拡張整備された福知山城は、由良川の流れを変えて堤防を築き、城下町建設が進められたものである。現在の福知山城は、昭和61年に天守閣が復元されたものであり、福知山市のシンボルとして親しまれている。

4) 自然公園等の指定状況

由良川流域では、自然公園法に基づき、河口部の「若狭湾国定公園」、兵庫県の竹田川流域における「多紀連山県立自然公園」が指定されている。

由良川の河口部から西へ連なる由良海岸は、白砂の遠浅で海水浴場として親しまれるとともに、そのコバルト色の日本海の眺望が、若狭湾国定公園の代表的な景観となっている。



図 2.4 由良川の自然公園位置図